

第1号議案

2016年度のまとめと2017年度のすすめかた

《2017年度スローガン》

**地域包括ケア^①時代—誰もが、住み慣れた地域で“その人らしく、
気持ちよく生きる”ことができるまちづくりをすすめよう！**

はじめに

今日、少子高齢・人口減少社会の到来の中、格差・貧困・孤立化がすすんでいます。高齢者ケアをめぐる「介護難民」「老老介護」「認認介護」「介護虐待」「引きこもり」「孤独死」「介護離職」「介護殺人」等の様々な諸問題が表面化しています。家族のあり様も大きく変化しており、未婚率の増加や単独世帯の増加等で、今までのように家族を単位とした対応は難しくなっています。

当生協は2016年度、法人理念を「その人らしく、気持ちよく生きる」に変更し、事業活動や地域活動を通して理念の浸透に力を入れてきました。個人の尊厳と生活の質（QOL）の向上を大切にしたサービスの提供とまちづくりをすすめています。

事業活動では、2016年4月に定期巡回・随時対応サービス^②東部を福祉介護センター別所内に開設し、7月には福祉介護センターひがしを生協本部東隣りに移転し、機能強化をはかりました。また、2017年3月には姫路市北部地域の香寺町に福祉介護センター香寺（居宅介護支援事業所・訪問看護・訪問介護）を開設し、計画的な事業展開を推進しました。2017年度も定期巡回・随時対応サービスや小規模多機能ホーム等の地域密着型サービスを中心に着実な事業展開を推進します。

私たちは、事業を通じた社会貢献をすすめ、現在の諸問題と超高齢社会“2025年問題”に対応し、未来を切り開きます。事業と活動をさらにひろげ、地域共生社会^③をめざします。

姫路医療生協の姫路市内における
介護サービスのシェア（件数）

	2015年度実績	2014年度実績
□定期巡回・随時対応サービス	100.0%	
□小規模多機能ホーム	33.0%	30.8%
□訪問入浴	28.5%	27.6%
□訪問看護	21.5%	23.4%
□訪問介護	11.5%	11.2%
□ケアプラン	11.6%	11.1%
□福祉用具レンタル	9.3%	9.8%
□通所リハビリ	8.9%	9.3%
□通所介護	5.5%	5.1%

1) 2016年度のまとめ

1. 環境変化に対応し、地域ニーズに応えた事業拡大と利用者増をはかります

①地域包括ケアとICF（国際生活機能分類）^④の実践をすすめ、理解を広げました。

○地域ケア会議^⑤の定例開催（隔月）で多職種協働がすすみました。

○職員が姫路市医療介護連携会議の各部会や協議体^⑥等に積極的に参画し、行政や他団体との“顔の見える関係づくり”を推進しました。

○2月に姫路市長と“地域包括ケアの推進”をテーマに懇談しました。

また、地域包括ケアセミナーを開催（講師：国際医療福祉大学大学院教授・地域包括ケア研究会委員 堀田聡子氏）し、行政や他団体含め164名の参加がありました。

②地域密着型サービスを中心に積極的な新規事業を展開しました。

○2016年4月 定期巡回・随時対応サービス
東部開設

7月 福祉介護センターひがし移転

2017年3月 福祉介護センター香寺(居宅
介護支援事業所、訪問看護、
訪問介護)開設

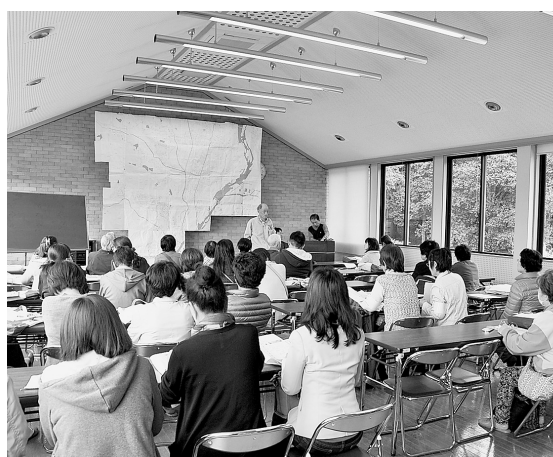
③経営活動は3つの柱（質の向上・コンプライアンス・利用者増）ですすめました。

○4月に訪問看護ステーション共立ひめじで
機能強化型訪問看護ステーション^⑦Ⅱを取
得しました。

○2月にあぼし診療所で電子カルテを導入しました。

○姫路市の実地指導を生かしたコンプライアンス（法令遵守）強化をはかりました。

○2016年度決算は、事業収益44億6,943万円（予算比97.4%、前年比104.6%）、経常利益1億1,422万円（経常利益率2.6%、予算比58.1%、前年比138.0%）到達となりました。



香寺つくる会訪問行動

2. 行政や他団体との“顔の見える関係づくり”を事業所やブロック、支部でひろげます

①支部活動の活性化をはかり、組合員・地域住民の要望に応えた活動をすすめました。

○5月に「口腔と栄養」講演&シンポジウム、7月に健康づくりフェア2016「笑いヨガ」、1月に新春講演会「悪質商法にだまされない方法」を開催しました。

○認知症カフェや家族会のとりくみを重視しました。増位支部は「オレンジカフェ花北」、英賀・津田支部は「100緑カフェ」を立ち上げました。

○健康チャレンジ^⑧は各市町やコープこうべの後援を得てとりくみ、428名が参加しました。新企画のキッズチャレンジ（子ども向け健康チャレンジ）も行政の後援を得て、20の幼稚園や小学校等に採用され、多くの子どもや親御さんに喜ばれました。

○ブロックや支部主催の集いや健康講座、まちかど健康チェックなどが多彩におこなわれました。「姫路医療生協に加入して良かった集」を作成しました。

○旅行サークル「てくてく歴史散策」は開催200回を迎え、月刊誌「コムコム」と「いつでも元気」に紹介されました。

○仲間ふやしは656名（純増56名）、出資金ふやしは5,484万円（純増1,869万円）の到達です。積立出資は月平均1,045件となりました。ニュースひめじ配布協力者は1,005名です。

②くらし・平和を守る活動をすすめました。

○原水爆禁止世界大会（広島大会）に2名を代表派遣し、生協強化月間スタート企画で報告しました。

○「原発なくせ」の署名行動を継続し、3月には山電姫路駅前で50名規模の「原発なくせ」署名宣伝行動にとりくみました。

○西播磨地域における中学校卒業までの子ども医療費無料化を求める声を広げました。

○平和バスツアーは、9月に長島愛生園で人権について学びました。

○4月の熊本地震、10月の鳥取中部地震に対して、救援募金や人的支援にとりくみました。



「笑いヨガ」講演会（2016年7月）



新春講演会「悪質商法にだまされない方法」(2017年1月)



「原発なくせ」署名宣伝行動（2017年3月）

3. “地域包括ケアを担う人づくり”をすすめます

①「職員育成4つの視点」に基づき、職員研修をすすめました。

○全職員を対象とした職員研修を延べ14回実施しました。姫路医療生協の地域包括ケアの実践を学び、グループワークは「介護殺人」をテーマに議論しました。

○新任管理者研修、安全運転研修会等を開催しました。

②人材確保と育成の強化をはかりました。

○介護福祉士の確保は、実習・見学やインターンシップを旺盛に取り組み（学生83名参加）、2017年4月には8名の常勤介護職を採用することができました。

○1月に福祉の就職相談イベント「Open Cafe」を実施し50名の参加がありました。

- 9月に若手介護福祉士の学習交流会を開催し、横のつながりを強めました。
- 医師確保は、今後の最重点課題です。
- ③組合員と職員がともに学び合いました。
- 第18回介護・医療フォーラムは11月に開催しました。「あなたが一番大切にしていることは何ですか」をテーマに生活行為向上リハビリ^⑨について205名の組合員・職員が学びました。
- 通信教育は、組合員65名、職員59名が受講しました。
- ④内部統制システム^⑩の推進をはかりました。
- 全職員対象にストレスチェックを実施しました。
- 7月に起きた相模原市の障害者施設での殺傷事件をふまえ、人権の大切さと危機管理強化の周知をはかりました。
- ICT（情報通信技術）の導入については今後の課題です。



福祉の就職相談イベント
オープン・カフェ
『Open Cafe』（2017年1月）

2）2017年度のすすめかた

1. 利用者を中心にした「介護と医療の一体化したサービス」の提供をめざします

- ①地域包括ケアとICF（国際生活機能分類）を実践によって考え方をひろげます。
- 全事業所が地域包括ケアの中で果たす役割を明確にします。
- 「中重度利用者」「認知症」「生活行為向上リハビリ」「在宅看取り」「口腔ケア」「栄養管理」対応の機能強化をはかります。
- 行政や他団体との“顔の見える関係づくり”をさらに強化します。
- 姫路医療生協版「地域ケア会議」を定期開催し、利用者中心の多職種協働をすすめます。



「地域包括ケア」セミナー（2017年2月）

②地域密着型サービス等の新規事業の積極的な展開をはかります。

○毎年、着実な事業展開を推進します。2017年4月に定期巡回・随時対応サービスあぼし、6月に小規模多機能ホーム香寺、2018年4月に小規模多機能ホーム野里、定期巡回・随時対応サービス北部を開設します。

総合事業訪問生活援助は2017年9月スタートに向け、準備をすすめます。

○医療事業は、訪問診療件数増と医師の確保、地域包括ケアの中で果たす役割の周知と職員の意識変革をはかります。共立病院大改造の条件整備をすすめます。

○2017年4月から始まる総合事業Ⅱに対応し、介護予防・生活支援活動を推進します。

○障害福祉サービスの新たな展開を研究します。

○姫路市に隣接する市・町での事業展開の検討をすすめます。

③経営活動は3つの柱（コンプライアンス・質の向上・利用者増）ですすめます。

○コンプライアンスを徹底し、各種加算をすべて取得することでサービスの質の向上につなげます。

○広報活動と営業活動を強化し、利用者増をはかります。

○ICT（情報通信技術）導入の具体化をはかります。

○事業収益は48億3,290万円（前年比108.1%）、経常利益は1億6,693万円（経常利益率3.5%）を実現します。経営改善をすすめ、全事業所で黒字経営をめざします。

2. 健康づくり、助け合い活動をひろげ、地域コミュニティづくりに貢献します

①“楽しく、おいしく、オシャレ”な生協活動をめざします。

○健康づくりは「明日（あした）が大事！」（あ…歩く、し…しゃべる、た…食べる）を基本に楽しくすすめます。

○“くらしの困りごと”を話せる場づくりをひろげます。

○イチ押し班会メニュー⑩、健康チャレンジ2017、キッズチャレンジ（子ども向け健康チャレンジ）、健康講座等を地域にひろげます。

○支部活動の活性化をはかります。つながりを生かした世話人づくりをすすめ、若い世代へのはたらきかけを強めます。

○仲間ふやし1,050人、出資金ふやし3,000万円以上（純増1,500万円）、各事業所は組合員利用率のアップをはかります。



健康ウォーキング「さあ出発!!」



共立病院 夏休みこどもいきいき探検隊

②地域に開かれた活動で“地域共生社会”づくりにとりくみます。

○つながりを大切にし、多世代交流による地域での支え合い活動にとりくみます。地域住民誰でも参加できるイベントを企画します。

○公民館等の公共施設の活用や“通いの場”づくりを重視します。認知症カフェや介護者家族会、見守り活動をひろげます。

○くらしの助け合いの会はなちゃんの支援会員や各事業所ボランティアをふやします。

○協議体や各地域の圏域会議へは“すべての社会資源は地域のもの”の立場で参画します。

③くらし・平和活動をすすめます。

○行政とは“対話型・提案型”で、ともに地域包括ケアを推進します。

○原水爆禁止世界大会への代表派遣や「大学学習会」等を企画します。

○憲法を学び、平和と人権について考え、行動します。社会保障の充実、原発ゼロの声をひろげます。



『100緑カフェ』は大盛況!! (英賀・津田支部)

3. “地域包括ケアを担う人づくり”をすすめます

①職員育成 4つの視点の具体化・実践をすすめます。

○職員育成 4つの視点ー（１）認知症ケアと生活行為向上リハビリを学び実践できる（２）多職種協働と組合員・地域住民との協働ができる（３）組織の成果を上げるために意識的に行動（マネジメント）できる（４）主体的に生協活動に参画できる人づくりをすすめます。

○全職員を対象にした職員研修を実施します。

○マネジメント研修を重視し、管理者・リーダーを計画的に育成します。

②あらゆる手立てを講じて、人材確保をすすめます。

○特に医師、介護福祉士、看護師の確保は必須の課題です。

○処遇改善と“働きやすい職場づくり”をすすめます。

○介護職員「実務者研修」にとりくみます。

③組合員と職員がともに学び、協同をひろげます。

○第19回介護・医療フォーラムの開催や通信教育等にとりくみます。

○月刊誌「コムコム」「いつでも元気」を組合員・職員に普及します。

④ 内部統制システムを強化します。

○災害対策や事故防止等のリスク管理と法人としての仕組みづくりを重視します。

《語句の解説》

① 地域包括ケア

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり。介護、医療、生活支援・介護予防、住まいの切れ目のない一体的なサービスの提供をめざします

② 定期巡回・随時対応サービス

訪問介護と訪問看護、オペレーションサービスを組み合わせた24時間対応の安心サービス

③ 地域共生社会

すべての地域住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく暮らすことができる社会

④ ICF（国際生活機能分類）

障害だけでなく、その人の生活－心身機能（体の働き）、活動（生活）、参加（人生）を見ることを重視した考え方

⑤ 地域ケア会議

多職種の医療・介護専門職や地域住民等が参加して、事例を通して地域課題を明確にし、新たな社会資源の開発につなげる会議

⑥ 協議体

地域の生活支援体制を構築するために設置された行政の検討会議

⑦ 機能強化型訪問看護ステーション

充実した人員体制、24時間対応、在宅看取り、教育機能等を兼ねそろえた訪問看護事業所

⑧ 健康チャレンジ

自ら目標を決め、2か月間、気軽に楽しみながら健康づくりに取り組む姫路医療生協の健康企画

⑨ 生活行為向上リハビリ

日常生活の“活動”（食事・入浴・排泄など）を高め、家庭や社会への“参加”を可能にし、自立を促すリハビリのこと

⑩ 内部統制システム

業務全般の適正さが確保できる仕組みをつくり、その仕組みに基づいて運営すること

⑪ 総合事業

各市町村が、地域包括ケアを推進するために介護予防や生活支援サービス等を整備する事業

⑫ イチ押し班会メニュー

各事業所・職員が専門性を生かして作成した班会メニュー。介護・医療・福祉の専門家が、地域で分かりやすくお話しします

2017年度 各事業所の理念と重点課題

《姫路医療生協の理念》

その人らしく、気持ちよく生きる

共立病院

《理 念》利用者が満足できるより良いサービスを提供し、地域から信頼される病院をつくります

《重点課題》

- 現代の水準に見合ったサービスを地域住民へ提供するため、早期の病院建て替えを今後の最重点課題として位置づけます。
- 地域住民の在宅生活を支える病院として、地域包括ケア病床の機能を医療活動の中心に位置づけます。
- 職業人としてあるべきふるまいを常に心がけ、すべての関係者が満足できるような職員の接遇対応を実現します。
- 地域の医療機関や介護事業所との連携をさらに向上させます。

ヘルスコープあぼし診療所

《理 念》安心・安全の介護・医療連携で、利用者様へ満足度の高いサービスを提供します

《重点課題》

- 常勤医師を確保し、在宅医療での安心・安全を確保し、地域包括ケアを意識した終末期医療の対応ができる診療所を目指します。
- 患者様・家族の思いに寄り添い、利用者増に取り組めます。
- ICTを活用し、患者様の日常生活満足度を高める介護・医療の連携を図ります。

共立歯科

《理 念》口は いのちの入り口 健康の入り口

～生涯口から食べる楽しみをサポートします～

《重点課題》

- 地域包括ケアシステムにおける歯科の役割を果たし在宅歯科診療をひろげます。
- 安心安全な治療を提供し、健全で安定した経営を行います。
- すべての分野で選ばれる歯科を目指し、接遇の向上に努めます。

居宅介護支援事業所

《理 念》ふれ愛 ささえ愛 みとめ愛 とともに生きる

《重点課題》

- 7か所の居宅介護支援事業所のチームワークをもって、居宅香寺の特定事業所を取得しま

す。

- I C F の視点に立った生活行為向上を実践できるアセスメント力を身に付け、お一人おひとりの利用者の尊厳を大切にした自立支援を実践します。
- 介護支援専門員として、地域共生社会を目指して法人内外の地域ケア会議に参加し、地域の社会資源の活用と多職種との連携を図り、地域包括ケアシステムでの役割を担います。

姫路市増位・広嶺地域包括支援センター

《理 念》 住み慣れた街で 共に支え合い 共に生きる

《重点課題》

- 住民団体や既存の地域資源と連携・協働し、地域の自助力・互助力を高められるような取り組み（介護予防・認知症予防・権利擁護などの普及啓発）の充実を図ります。
- 地域づくりを視点とした「地域診断」を行い、担当エリアごとの地域課題を抽出し、効率的・重層的な取り組みをすすめます。
- 「地域ケア会議」を利活用し、多・他職種連携協働と地域のコーディネート機能を強化し、地域包括ケアシステムの推進を図ります。
- 認知症の普及啓発を推進し、支援体制の強化に努め「認知症にやさしい地域づくり」をすすめます。
- 介護予防・日常生活支援総合事業移行がよりスムーズに行えるようすすめます。

相談支援事業所

《理 念》 ともに寄り添い、一人ひとりの自立をささえます

《重点課題》

- 共生する社会づくりのため、多職種との連携を図り、利用者の獲得を目指します。
- トータルコーディネーターとしての質の向上を目指します。
- 生協活動への理解と参加をすすめます。

訪問看護ステーション

《理 念》 安心・安全・心あたたまる看護を提供します

《重点課題》

- 地域包括ケアを担う人づくりすすめ 質、量ともに充実した体制を作ります。
- 認知症対応、ターミナル、リハビリ、精神、小児等幅広い利用者のご要望に応え満足していただけるサービスを提供します。
- 利用者増に努め、健全で安定した経営を行います。
- 定期巡回・随時対応サービス、小規模多機能との連携に努め、多職種協働をはかります。
- 法人の方針を周知し、地域組合員さんと協同して事業活動をすすめます。

定期巡回・随時対応サービス

《理 念》いろいろな不安にお応えできるよう“いつでもつながる安心”を提供いたします
《重点課題》

- 地域共生社会の実現に向け、利用者様をはじめ、地域住民の方や居宅介護支援事業所に広く周知していただけるよう、丁寧な分かりやすい説明や対応に心掛け、営業活動をいたします。
- 一歩先ゆく事業運営に努め、社会貢献できるよう人材確保に工夫し、働きやすい職場づくり、若い職員育成に積極的に取り組みます。
- 安定した黒字経営ができるよう効率化も図り、利用者確保できるよう努力いたします。

ヘルパーステーション

《理 念》笑顔が見たい… そんな気持ちで優しい介護
《重点課題》

- 訪問介護サービスと総合事業サービスの一体化を図り多様なサービスを展開し、利用者様が在宅で気持ち良くすごせるよう努力いたします。
- ICFを共通言語化し、生活行為向上に繋がる支援に心掛け、自立した生活が送れるよう、また全員が質の高いサービス提供ができるようにします。
- コンプライアンスの徹底・内部統制システムをすすめ、安定した黒字経営にも努めます。

福祉用具レンタル

《理 念》個性ある住みよい暮らしの演出をお手伝いします
《重点課題》

- 福祉用具専門相談員としての自覚と責任を持ち、知識や技術の向上に努めます。
- 病院や各事業所との連携をはかり、住み慣れた自宅での生活が続けられるよう様々な提案をします。
- 生協活動に参加して地域住民との関わりを持ち、地域包括ケアをすすめます。

訪問入浴サービス共立ひめじ

《理 念》安心・安全をモットーに体と心温まる訪問入浴をお届けします
《重点課題》

- 住み慣れた地域で、ニーズに寄り添った安心できる訪問入浴を提供します。
- 人材確保に努め研修などに積極的に参加し育成を重視します。
- 認知症の研修などに参加し、理解を深め、その人らしい入浴を出来る様に努めます。
- 福祉全般で幅広く利用者の要望にお応えできるように体制を整えます。

デイケア（通所リハビリ）

《理 念》一人ひとりを大切に その人らしさをサポートします

《重点課題》

- 活動や参加に重点をおくりハビリを実践し、認知症への対応力向上を目指します。
また、事業所内の訪問リハビリテーションも活用していきます。
- 地域包括ケアの一翼を担う事業所として、各サービス事業所と連携協働を強化します。
- 2018年度介護保険改定に向け情報収集を行い対応をすすめます。

デイサービス

《理 念》人が出会い『笑い』が生まれる

《重点課題》

- 地域から信頼され、選ばれる事業所づくりをめざします。
- 認知症の方、ご家族が安心して暮らせるよう支援します。

ショートステイつどい

《理 念》人がつどい「笑顔」が生まれる

《重点課題》

- 「医療的ケアと認知症ケア」の強化に努めます。
- 「利用者の立場から考えるケア」が行える人づくりを進めます。
- 「働きやすい職場」と「質の高い組織」をつくりまします。

小規模多機能ホーム

《理 念》一人ひとりに寄り添う 地域に寄り添う

《重点課題》

- 利用者の尊厳を守り、地域の生活者として支えます。
- 健全な事業所運営を行い、安定した経営に努めます。
- 人材確保と職員育成に取り組み、プライドを持って活躍できる職場をつくりまします。
- 地域コミュニティの拠点として、地域に開けた環境づくりに努めます。

グループホームめが

《理 念》思いやりの心で ひとりひとりの「生きる」を支えます

《重点課題》

- 利用者の尊厳が守られた認知症ケアを実践まします。

生協本部

《理 念》正確・迅速・思いやりのあるサービスを提供まします

《重点課題》

- 人材を確保・育成し、事業の発展に貢献まします。

- “安心して働ける事業所づくり” にチームとして貢献します。
- 健康づくり・認知症見守りサポート・助け合い活動をひろげ、安心して暮らせる地域づくりに貢献します。
- 情報共有・発信ステーションとしての役割を担います。